

会報

謹んで新年のお慶びを申し上げます

防火管理

第91号

小千谷地域防火管理協会

会長 宮川 洋 祐

副会長 丸 山 謙 一

副会長 伴 雅 史

守りたい 未来があるから 火の用心

(2024年度 全国統一防火標語)



(風船一揆)

主な記事

- 1 防火管理協会会長ご挨拶
- 2 消防長ご挨拶
- 3 令和5年度優良会員等表彰
- 4 令和6年消防概況
- 5 本年度事業トピックス
- 6 記憶を風化させない、今こそ備える
- 7 備品紹介

年頭のご挨拶

小千谷地域防火管理協会

会長 宮 川 洋 祐

(株式会社 魚沼電子 代表取締役社長)



新年明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、穏やかな新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

日頃より当協会の活動に御理解と御協力を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、昨年も日本列島は様々な災害に見舞われました。とりわけ印象深い災害としては、一月一日に発生した能登半島地震、そして、復興がなかなか進まない中で9月に発生した能登半島豪雨です。多くの命が奪われ、甚大な被害となりました。今なお

復興は道半ばではありますが、私たちも20年前の中越大震災から復興したように、能登半島の皆様も時間はかかると思いますが、必ずや復興できると信じております。1日も早い復興をお祈り申し上げます。

また、昨年末は全国的に火災のニュースが多かったように思います。これらを見たり、聞いたりするたびに、「人ごと」とせず、「自分ごと」として備えていくことが求められていると感じました。

小千谷市消防本部管内における昨年の火災状況をお聞きしたところ、1年間の火災件数は9件と昨年より減少しました。これも、皆様の常日頃の防火意識の向上によるものと感謝申し上げます。引き続き、火災の発生を防ぐためにも、「自分の事業所は自分達で守る」という基本理念を確認し、日頃より、火災予防や防火知識の普及に努めていただきたいと思います。

次に、当協会の活動においては、「甲種防火管理新規講習」、2回の「普通救命講習」や春・秋の火災予防運動における事業といたしまして、「1日消防署長」「防火イラスト・書道展」等を開催しました。

中でも、「1日消防署長」では、吉谷小学

校の児童2名による化学車での管内防火広報、本町商店街において防火のお願いを行い、市民の皆様への防火意識の普及と啓蒙に努めました。

また、昨年に引き続き「わくわく消防教室」と致しまして地震体験車で市内の幼稚園、保育園に赴き、地震の体験をしていただき好評を得ました。

当協会は、これらの活動を通じ幼年防火委員会、危険物安全協会、婦人防火クラブ、自主防災組織連絡協議会及び小千谷市消防団並びに消防本部との連携を深め、市民の防火意識の普及、啓蒙に努めていきます。

会員の皆様におかれましては、今年のご活動においても一層の御支援と御協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

末筆となりましたが、皆様の御多幸を心より祈念し、年頭の御挨拶と致します。

新年のご挨拶

小千谷市消防本部

消防長 村山 博

(小千谷地域防火管理協会 顧問)



輝かしい令和7年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

会員の皆様におかれましては、平素から防火思想の普及をはじめ多岐にわたる業務を通じて、安全・安心の確保にご尽力を賜り心から感謝を申し上げます。

さて、冬は気温が下がり食卓に上ることが増えるのが鍋料理であります。その際、カセットコンロを使う家庭が多いと思います。また、寒さが厳しくなると、石油ストーブが欠かせない家庭も増えてきます。しかし、これらの火気器具は、使用時に十

分気をつけないと思わぬ事故につながる可能性があります。東京消防庁では公式X(旧ツイッター)アカウントで、「鍋が美味しい季節になりました」とメッセージを添えて、注意喚起をしています。同庁は「〇〇不足による一酸化炭素中毒事故が発生しています！」との書き出しで、1本の動画を投稿しました。動画は「換気不足による一酸化炭素中毒が発生しています！」と注意喚起のナレーションで始まり、事故防止のポイントを3つ紹介しています。カセットコンロなどの火気設備・器具を使用する際は、正しい使用方法を守ることがもちろんのこと、換気扇を使用したり、定期的窓を開けたりして、換気を十分に行うことが大切です。使用中に少しでも異常を感じたら、使用を中止し、十分に換気を行ってください。不完全燃焼も、一酸化炭素が発生する原因になりますので、器具は定期的に点検し、きれいにすることも忘れないようにしてください。

消防の話に戻りますと、令和6年の救急及び火災概況について、救急出動件数が過去最多となり^{1,868}件で、前年比8%増、市民19人に一人を搬送したこととなりました。政府の将来推計によりますと、救急

需要は少子高齢化の進展により年々増大することが示されており、救急活動時間の延伸防止とともに、これに伴う救命率の低下を防ぐ対策が重要であると言われております。

消防本部といたしましては、当市の更なる救急体制の充実のため、救急救命士の育成と並行して応急手当の普及啓発活動を推進して参りたいと存じます。

また、昨年の火災件数は9件で、住宅火災における高齢者の死傷者は0件でありました。

全国的に逃げ遅れによる高齢者の死傷率が増加しておりますので、引き続き、住宅防火対策を積極的に推進して参りますので、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、小千谷地域防火管理協会と会員事業所の益々のご発展と会員の皆様のご健勝、また、本年が災害のない平穏で幸多き一年でありますことを祈念申し上げます。頭のあいさつといたします。



令和5年度優良会員等表彰

防火管理について、他の模範となる優良防火管理者、優良事業所等が表彰されました。

【優良防火管理者表彰】

防火管理者として、防火対象物の防火管理を的確に遂行していること、消防計画に基づく定期的な自衛消防訓練を熱心に実施していることなどの功績により受賞されました。

(規則第4条第1項第1号該当)

○小千谷市 小粟田

小千谷市養護老人ホーム

防火管理者 湯本 文昭 様

(写真 前列左側)

○小千谷市

旭町 町内会 様

(写真 前列中央右側)

○長岡市川口地域

川口中山 町内会 様

(写真 前列右側)

【優良事業所表彰】

消防用設備が適正に維持されていること、職員の防火意識が高く、消防計画に基づく定期的な自衛消防訓練を熱心に実施していることなどの功績により受賞されました。

(規則第4条第1項第3号該当)

○小千谷市 上ノ山

阿部幸製菓株式会社 様

(写真 前列中央左側)

【住宅防火モデル地区無火災表彰】

令和5年度の当管内の住宅防火モデル地区として指定を受け、地域住民の防災意識の高揚に努め、一年間の無火災を達成されたことにより受賞されました。

(規則第4条第1項第4号該当)

令和6年消防概況

火災概況

出火件数 (速報値)

※()内は前年数

出動全体

小千谷市 8件 (7件)
川口地域 1件 (2件)
高速道路 0件 (1件)

火災種別

建物火災

小千谷市 4件 (3件)
川口地域 3件 (3件)
川口地域 1件 (0件)

車両火災

小千谷市 2件 (3件)

その他火災

高速道路 0件 (1件)
川口地域 0件 (1件)
小千谷市 2件 (3件)
川口地域 0件 (1件)

林野火災

小千谷市 1件 (0件)
川口地域 0件 (0件)

◆出火原因 (速報値)
出火原因は左表のとおりです。

出火原因	件数
線香	1
虫焼火	1
たき火	1
たばこ	2
ごみ焼却炉	1
その他の都市ガスを用いる固定したガス設備	1
交通機関内配線	1
不明	1
合計	9

◎火災概況における傾向

令和6年の火災件数は9件で、前年と比較すると1件の減少となっています。

建物火災は前年より1件増加し、4件となっています。

死傷者数は、死者0名、負傷者2名の計2名発生しています。

出火原因を見ると、たばこ、たき火、虫焼火など火の不始末が原因と考えられる火災が多く挙げられます。少しの不注意が大きな火災につながります。各事業所やご家庭においても、暖房器具や火気の取扱いにはご注意をお願いします。



―救急概況― (速報値)

◆救急出場件数 ※()内は前年数

出場全体 1,868件 (1,727件)

小千谷市 1,645件 (1,526件)

川口地域 211件 (190件)

高速道路 12件 (11件)

その他(管轄外) 0件 (0件)

◆事故種別

急病 1,216件 (1,140件)

一般負傷 282件 (241件)

交通 93件 (70件)

その他 277件 (276件)

※その他には、転院搬送、労働災害、自損行為等が含まれます。

◎救急概況における傾向

救急出場件数は1,868件で、搬送人員は

1,688名でした。どちらも過去最高の件数

となっております。一日平均で見ると、

約5.1件出場し、約4.6名を搬送したこと

になります。

―救助概況― (速報値)

◆救助出動件数 ※()内は前年数

出動全体 30件 (21件)

小千谷市 24件 (15件)

川口地域 3件 (4件)

高速道路 3件 (2件)

その他(管轄外) 0件 (0件)

◆事故種別

火災 1件 (0件)

交通事故 16件 (6件)

機械による事故 2件 (2件)

水難 0件 (2件)

建物等による事故 4件 (4件)

ガス及び酸欠事故 1件 (0件)

その他 6件 (7件)

※その他には、山菜採り中の事故、木の伐採中の事故等が含まれます。

◎救助概況における傾向

救助出動件数30件のうち救助人員は21名でした。

交通事故による出動が16件で全体の約53%となりました。

令和6年度事業トピックス

住宅防火モデル地区

小千谷市は上ノ山、長岡市川口地域は川口中山(竹田地区)、木沢(木沢地区、峠地区)がそれぞれ「住宅防火モデル地区」の指定を受け、4月から火災予防に努めていただいております。当協会もモデル地区にのぼり旗や火災予防啓発ティッシュの配布等を行い、火災予防に協力しています。

住宅用火災警報器設置事業

火災予防運動の実施に伴い、小千谷市社会福祉協議会、消防団女性部、東北電力株式会社と共に、一人暮らし高齢者宅を訪問し、火の元点検及び住宅用火災警報器の点検を行い、9世帯に計13個の住宅用火災警報器を新たに設置しました。



一日消防署長拝命

4月4日(木)小千谷市立吉谷小学校
6年生2名が一日消防署長に任命され
ました。宮川会長と防火チラシ等を配布
し火災予防の普及啓発を図りました。

● 辞令交付の様子



「一日消防署長体験を振り返って」

金子 宙人

『一日消防署長』という、大人でもなか
なかない貴重な体験をさせていただき
ました。行く前は、ドキドキする気持ちと
ワクワクする気持ちが入り混じっていまし
た。

「これから一体どんなことをするんだろ
う。」

いろいろなことを想像していたら消防署
に到着しました。消防署の中に入ったら、
消防署員の方々がたくさんいて、緊張感
が増しました。そして、消防署の制服を着
せてもらいました。とてもかっこよかったです。

市内を巡回したり、通信指令室を見せ
てもらったりした後、はしご車に乗りまし
た。乗ってみると、街が一望できてスリル満
点でした。一番上までいくと、まるで空を
飛んでいるかのような気持ちになりました。
市民の皆さんに手を振ると、笑顔で返し
てくれたのが嬉しかったです。消防署の方
は、いつもこんなに高くて怖いものに平気
な顔で乗っていたのか、と思いました。

また、防災の大切さを伝えるために、チ

ラシを配りました。いろいろな場所で一生
懸命呼びかけたことで、やっと全てのチラ
シを配り終わった時は、達成感でいっぱい
でした。

今回の体験を通して、消防士さんの仕
事は大変だけれど、人々の役に立てる素
晴らしい職業だと感じました。この体験を
生かして、地域のために何か貢献したいと
感じた一日でした。(原文のまま引用)

● はしご車試乗体験の様子



一日消防署長の金子宙人さん

「一日消防署長体験を振り返って」

吉田 奈央

私は、『一日消防署長』を体験して、心に残ったことが三つあります。

一つ目は、任命式のことです。たくさん消防隊員の人たちが私たちを見ていて、すごく緊張しました。

「今日は、消防署長の仕事をしっかりとりたいと思います。」

と、意気込みを言い終えると、少しほっとした気持ちになりました。

二つ目は、はしご車に乗ったことです。最初は立っていられないくらい怖いかもしれないと思いましたが、意外と景色を眺めるくらい心の余裕があり、小千谷の街がすごくきれいに映りました。建物が小さく見えて、とてもおもしろかったです。消防隊員の人たちは、この高さから消防活動や救助活動をしているんだと思うと、尊敬する思いです。

三つ目は、本町に行つて、チラシ配りをしたことです。最初は、渡すときに緊張してうまく渡せませんでした。それでも、やっていくうちに緊張がとけてきて、だんだんう

まく渡すことができるようになってきました。消防隊員の人たちがサポートしてくれたので、スムーズに進めることができました。

今回は、貴重な体験をさせてもらえてとてもうれしかったです。消防隊員の人たちはすごいことをしているんだということを知りました。この体験を忘れずに過ごしていきたいです。（原文のまま引用）

●はしご車試乗体験の様子



一日消防署長の吉田奈央さん

●防火チラシ等の配布の様子



●通信指令室見学の様子



わくわく消防教室

秋の火災予防運動に併せ、10月29日（火）、30日（水）、31日（木）に小千谷市幼少年防火委員会主催の「わくわく消防教室」が開催されました。

今年度は、ひばり認定こども園、東保育園、北保育園（3施設とも当協会加入事業所）を訪問し、消防車両展示、起震車体験、濃煙体験、防災ダッククイズを実施し、防災の大切さを伝えました。園児の皆さんは、真剣な表情で消防職員の話をじっと聞いていたそうです。

いつ発生するか分からない大災害に備え、幼少期から防災について学ぶことはとても重要なことです。

当協会も本事業に協賛し、のぼり旗を掲げました。



● 消防車両展示の様子



● 起震車体験の様子



● 濃煙体験の様子



● 防災ダッククイズの様子



普通救命講習

6月4日(火)、9月25日(水)に普通救命講習が開催されました。第1回目は23事業所から42名、第2回目は17事業所から27名の方が受講し、救命に必要な知識と技術を習得しました。

普通救命講習は、2年ごとの受講を推奨しています。また、救急講習は事業所での開催も可能です。希望される事業所は、当協会事務局までお問い合わせください。

なお、第3回目は定員40名で1月30日(木)にサンラックおぢやで開催予定です。



甲種防火管理新規講習

7月18日(木)と19日(金)の2日間、「サンラックおぢや」において、甲種防火管理新規講習を実施し、43名(当協会加入事業所25名)の方から受講していただきました。

近年では、工場や福祉施設、雑居ビル等で多くの死傷者を伴う火災が発生しています。被害を拡大させる要因の一つが防火管理体制の不備とされています。

新たに資格を取得された皆様には、これからそれぞれの事業所において、防火管理者として、適切な防火管理業務の遂行に努めていただきますようお願いいたします。

大規模な特定防火対象物等の防火管理者は、消防法令の改正等を把握し、防火管理業務を適切に実施するために必要な知識の更新が必要とされ、5年ごとに再講習の受講が義務付けられています。

防火イラスト・書道展

市内の保育園、幼稚園、小学校から、防火イラスト・書道合わせて305点の作品の応募がありました。秋の火災予防運動期間に併せて、サンプラザ様にご協力をいただき、作品を展示しました。



記憶を風化させない、今こそ備える

2004年の新潟県中越地震から20年が経過し人々の記憶も徐々に薄れていく中、去年は能登半島地震が発生し、新潟県内にも大きな被害をもたらしました。

中越地震から20年の節目を機に、もう一度地震に対する備えを確認しましょう。

また、災害の記憶を風化させず、次の世代へと繋いでいくことが求められています。大地震を経験していない若い世代に過去の経験や教訓を伝え、防災意識を高め、子どもたちの未来を守りましょう。

地震はいつ、どこで発生するか予測が難しいため、日頃から災害への備えをしておくことが大切です。

●地震に対する備え

①防災グッズの用意

非常食、水、懐中電灯、ラジオ、救急セットなど、最低3日分の備蓄を心がけましょう。

②避難場所の確認

自分の家や職場から最寄りの避難場所を確認し、家族や職員で共有しておきましょう。

③情報収容手段の確保

ラジオやスマートフォンなど、災害時に情報を得るための手段を確保しておきましょう。

④家族や職場との連絡方法の確認

災害時に家族や職員と連絡が取れるように、事前に連絡方法を決めておきましょう。

⑤防災訓練への参加

地域の防災訓練に参加し、いざという時のために備えましょう。



新潟県中越地震



能登半島地震

水消火器と的を購入

水消火器は、各事業所の自衛消防訓練の消火訓練や自主防災会の防災訓練等に使用するものです。従来は、日本消防協会からの寄贈品や危険物安全協会の購入品を使用していましたが、経年劣化により破損が目立つようになったため、新たに当協会で2セット購入させていただきました。

水消火器は、消火薬剤の代わりに水を使用しますが、見た目や操作方法は本物の消火器と変わりません。火災発生時は、素早い初期消火で被害を最小限に食い止めることができます。有事に備えて、日頃の取扱い訓練が重要です。

なお、水消火器は、事業所や団体に対して無償で貸し出しをしております。水消火器の貸し出しを希望される場合は、当協会事務局までお問合せをお願いします。



会報 防火管理 第91号

発行日 令和7年1月1日

編集 小千谷地域防火管理協会 事務局

小千谷市城内3丁目1番9号

小千谷市消防本部予防課内

TEL (0258)-83-0238 (直通)

FAX (0258)-82-0209

E-Mail syobou-yobou@city.ojiya.niigata.jp